

令和7年度第 1 回小浜市地域公共交通会議 議事録

1 日 時 令和 7 年 8 月 5 日 (火) 10:30～12:20

2 場 所 働く婦人の家 3 階 大会議室

3 出席者 <委員> 21 名、欠席 5 名

川本義海会長、野村徳夫副会長、水野雅継委員、岩崎一沖委員（代理：松井様）
小泉理委員、赤田徹委員、荻野真次郎委員、新谷学委員、岩本昌樹委員、青木美昭委員
小林正尚委員、加藤拓委員、下中雅之委員、山田和義委員、川畑隆弘委員、
山森大樹委員（代理：刀祢様）、中出博行委員（代理：清水様）、四方宏和委員
清水雅彦委員、山下和彦委員

<事務局>

小浜市新幹線・交通政策課

4 議事次第

(1) 開会

(2) 会長・副会長選任

(3) 議事

(報告事項①)

小浜市の公共交通の現状について

(報告事項②)

免許返納者対象アンケートの結果報告について

(協議事項①)

公共交通にかかる実証事業について

(3) その他

(4) 閉会

5 議事

(1) 開会

【委員委嘱】

事務局：前回の委員の任期満了および人事異動等により交代となる委員の方については、前回の任期満了後、8月からの委嘱とさせていただいておりますので、ご了承ください。

【会長・副会長 選任】

事務局：会長・副会長の選任について、本会の会長は、福井大学大学院教授・川本委員にお勤めいただきたいと存じますが、皆様よろしいでしょうか。

(異議なし)

なお、副会長につきましては、内外海コミュニティセンター長の野村様にお願いさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【会長挨拶】

本日は、今年度第1回目ということですが、令和4年度に策定しました「小浜市地域公共交通計画」に基づき、進めていくこととなります。本日は、活発に議論いただきたいと思います。 よろしく願いいたします。

○地域公共交通会議とは

【中部運輸局・福井運輸支局】「活発で良い議論ができる会議のために」のパンフレットをもとに説明

(報告事項①)

○小浜市の公共交通の現状について

【事務局】資料に沿って説明

【会長】

委員の皆様、何かご質問・ご意見ありましたらお願いいたします。

【委員】

P11のような一覧表のような利用促進事業について、利用者はどこを見ると知ることができるのか教えていただきたいです。

【事務局】

小浜市のHPにて確認いただけます。また、電子申請も同じページから行うことができます。他には、市の広報誌でも周知しています。

【会長】

P11のような、全ての利用促進事業（制度）をまとめたものがあるとよいと思います。どれが使えるのかまず分かったらよいと思います。今回の資料でもよいので、(市のHPに)あげてもらえると良いのではないのでしょうか。

【事務局】

金額や件数などは別にして、なるべく一目で制度が分かるように HP を修正したいと思います。

【会長】

昨年度から何か変わったところや新規事業などがありますか。

【事務局】

特に新規事業などはございません。

【委員】

P11 の利用促進事業において、1、2 の事業は学生の定期の助成が右肩あがりに伸びていると思いますが、この制度を継続する中で周知が広がって今まで（制度を）知らなかった方が制度を利用しているというような分析はできていますか。

【事務局】

そこまで詳細な分析はできていない。その年の生徒数によって増減はすると思うが、増加傾向であるということは、周知も広がっていると思います。引き続き、学校側とも連携し制度の利用促進を行っていきたいと思います。

【委員】

P6 の運行経費について、運行費用 113,530,000 円に対して、運賃収入は 10,438,000 円。当然公共サービスですので、あくまでも儲けるということではなく、ある程度仕方ないと思いますが、やはり利用に関しては少ないと思います。実際、高齢化が進む中で、免許証を返納される方が多くなってくると高齢者の足というものがどんどん必要になってくると思います。しかし、今のあいあいバスは使い勝手が悪いのではないのでしょうか。停留所がニーズに合ってなかったり、たとえニーズに合っていても家から停留所までどのように移動するのかといったこともあるかと思います。仕方ない面があるにしろ、運行費用と収入の大きな差を埋めるということと、どのように考えていますか。

【事務局】

運行経費に対しての収入をあげるということが非常に難しい状況が続いています。先ほどの委員のご質問にもございました、バスの便数が少ないこと、バス停までの距離が長いこと、高齢者の移動手段としてのあいあいバスの利便性を今後上げていくためには、便数を増やすと経費が増える、しかし便数が増えたことによって利用者を増やすことは、なかなか現実的に難しいと考えています。また、この後、ご説明させていただきますが、今後の方向性としまして、今ある公共交通資源（バス、鉄道、タクシーなど）を複合的に組み合わせて、各公共交通を充実、もしくは補完していくという方向性で考えております。持続可能性ということも追及しなければなりません。限られた財源の中でどれだけでいいのかというのは、実証実験を踏まえながら協議していきたいと思います。

【委員】

ある程度の考えをお示しいただきましたが、これまでの地域公共交通会議で利便性を良くしなければならぬという観点から、あいあいバスに関しても、乗る人が増えれば運賃収入も増えるわけですが、そういったことは今まで議題としてあがったことはありますか。

【事務局】

利用促進という面では、度々、皆様からご意見をいただいて、取り組んでいるところでございます。なかなかマイカーの利便性に勝るものというのは、公共交通として作りにくいといのはあります。そういった中で各利用補助などで支援させていただきながら、なんとか乗っていただく。また、様々な機会を通して将来の利用者を増やすような取組みも行っておりますが、なかなか結果として現れていないのが現状でございます。今後も色々のご意見をいただきたい。

【オブザーバー】

委員でなく、オブザーバーで参加させていただいています。以前、福井県の交通まちづくり課長しておりまして、県内（各市町）の地域公共交通会議には、かなり出席しました。どこの市町村でも利用者をどう増やすかが議題になります。みなさん手をこまねいているわけではないですが、二言目には福井は車社会だと言われる。しかし、東京も車社会。全国どこもそう。その中で公共交通を使ってもらう一番の策は、頻度（便数）を増やすことだと思います。それで乗客数を増やしているのが、えちぜん鉄道であり福井鉄道です。30分に1本、1時間に2本という高頻度で運行しているので、乗客が伸びています。小浜線も減便されると利用者が減ってしまう。動きたい時間帯にそれがあるから動くということはどこもそうだと思いますが、ただ、バスの話で言うと運転する人がいない。供給が増やせない。需要と供給を見て、役所としてここまではなんとかお金を出して供給できるというような量しか供給できないというジレンマが前提にあります。

また、免許返納した方々が、その後どのような交通を選択するかを追跡調査をしますと、タクシーチケットを選択する人が多い。車を利用していた人は、ドア・ツー・ドアで移動することになっていきますし、車を利用（運転）している間は、そもそもどこにバス停があるかを意識している人はいません。急に免許返納をして移動手段が変わると、だいたいタクシーを選択する人が（どこの市町でも）多い傾向があります。そういった中でどうやって公共交通を意識の中に入れていただくかを考えないといけないと思います。今後、市としても公共交通をどうやって意識して使ってもらおうかということに力を入れていかないといけないのかなと思います。

【会長】

高校生の移動（通学）について、他の自治体では自転車を使われている方が多いですが、来年度からヘルメットの着用が義務化されます。そうするとヘルメットを被らないと通えないので、それを嫌がる人も一定程度いるようなことも聞きます。その中で家族の送迎やバス、鉄道を使う方など色々変化が出てくるかもしれない。そのあたりも注視をしていく必要があるかなと思います。

今の高齢者はずっと車を使われてきた方なので、今さらバスという方が多いのはよく分かります。この後、免許返納者のアンケート結果ということで紹介させていただきますが、それも顕著に現れています。すぐにバスには移せないで、その間をどう上手に乗るチャンスを作るか。その間に体が動けなくなる方もいる。今使っている方をどう取り込むかを考えていかないといけないと思います。

(報告事項②)

○免許返納者対象アンケートの結果報告について（小浜市における運転免許返納者の移動手段に関するアンケートの集計結果）

【会長】 資料に沿って説明

【会長】

委員の皆様、何かご質問・ご意見ありましたらお願いいたします。

※質疑なし

(協議事項①)

○公共交通にかかる実証事業について

【事務局】 資料に沿って説明

【会長】

委員の皆様、何かご質問・ご意見ありましたらお願いいたします。

【委員】

タクシー活用実証事業についてお尋ねします。実証事業の目的が公共交通（バスなど）の補完と書かれていますが、今後の展望などを見る限りは、移動ニーズにあった公共交通を把握するのが目的に思えるが、既存の公共交通の補完というところをどのように検証されるのかをもう少し教えていただきたいと思います。

【事務局】

あいあいバスの便数をなかなか増やせないというところがございます。バス事業者のご都合や財源的なこともございます。利用者様からの声を聞きますと、昼間移動するバスが中々ないというところがございます。そこをどうにか補完できないかというところを我々も考えておりまして、バスを増便できないという状況の中で、その補完するということを、行きはあいあいバス、帰りはタクシーでお帰りいただくといった方法で公共交通を補完していくということです。あくまで利用者の目線に立って補完をしていくというような形で考えております。

【委員】

例えば、地域（エリア）、時間帯など、タクシー会社さんから結果として提供していただくということが必要になってくると思います。タクシー会社さんの負担ということも当然出てきますので、そのあたりしっかり検証できる体制を作っていただきながら、実施していただきたいと思います。

【事務局】

貴重なご意見ありがとうございます。そのあたりも事前にタクシー事業者様と色々とお話もさせていただいております。また、どういったデータを蓄積するのかということにつきましても、システムを導入し、お客さんがどこからどこまで乗ったのかが数値としてデータ化できるように取り組んでおりますので、宜しくお願いします。

【委員】

タクシー活用実証事業について、2点質問がございます。ご利用者様に500円を負担いただくということで、上限が6回という回数制限があるんですけども、これは、①運転免許自主返納事業で得られるタクシーチケットと併用できるかどうかが1点。②モニターに付随される方の同乗も想定されているのか。という2点お伺いしたいと思います。

【事務局】

1点目につきましては、併用はなしということで我々は（新幹線・交通政策課としては）、考えておりますが、最後の詰めは、本日の話し合いをもって最終的に決定したいと思っております。2点目についてですが、モニターの方が利用される場合に、家族や夫婦で乗る場合等は当然想定しておりますので、そういったことが乗合になるということで想定しております。

【委員】

高齢者運転免許返納事業は先ほどのアンケート結果からも非常に周知率が低かったということと使ったことがない方が多かったものですから、せっかく、このタクシー活用事業を4カ月だけなんですけど、この機会を活用して高齢者の運転免許の自主返納事業を改めて周知するというのも非常にチャンスではないかと思えます。このタクシー活用実証事業のチラシなどを広報される抱き合わせてで運転免許自主返納事業のタクシーチケットを使えますというのを、ぜひ一緒にご検討いただいた方がいいのではないかということで私の意見として提案させていただきます。

また、チラシなどを作製される段階で、他の利用助成制度もすぐにチラシからアクセスできるように、このチャンスを機会に活用して、こちら（利用促進事業）のPRも一緒にしていただければ、なお相乗効果が現れるのではないかと思いますので、ぜひご検討くださいますようお願い致します。

タクシーの活用事業も積極的に「ご家族などとお誘いあわせの上、ご乗車ください」など普段バスに乗ったことがないようなご家族の方、免許返納された方（のご家族）は、恐らく、本当は自分は運転したくないのに免許返納されたお父さんやお母さんを乗せている方が結構いらっしゃると思います。このタクシー活用実証事業で、ご家族と一緒にタクシーに乗っていただいて、外出することの楽しさを味わっていただけるような、そういったこのチャンスをぜひこの（実証期間の）5カ月間で活用していただければと思います。これだけでなくいろんな制度を周知してほしい。

【事務局】

我々もどうやって周知していくかということで、できればプッシュ型で実施したいが、個人情報の関係もあり、なかなかプッシュ型でできないというところもございます。今の議論を基になんとか広報などを頑張っていきたいと思えます。

【委員】

まず、P7の市街地循環バスの令和4年度の結果ですが、最終便の時間が早いという意見が多く寄せられたということが記載されています。P13に記載されておりますように、（今回の実証は）最終便というのが15:00ということでよろしいですね。令和4年の実証概要と令和7年の実証概要で令和4年の最終便というのが、14:40となっています。（今回の実証は）最終便の時間が早いというニーズ（意見）にあわせた時間となっているのでしょうか。

【事務局】

最終便がまだ少し早いのではないかなというご意見かと思います。しかしながら、事業者さんの運転手さんのご都合もございまして、中々厳しいということがございます。そういったことで、15:00までとさせていただいたところです。便数としては1日7便から8便に増え、(1便)30分ということで、利便性の確保(を図りながら)といったところで、実証を行い、データをとって利用者の意見を聞きたいと思います。今後、運行の時間帯については、事業者様と引き続き協議を進めていきたいと思っております。

【委員】

交通事業者さんとするとはやはり顕著な人材不足で、たとえば(運行の)時間帯を17:00まで伸ばすことは難しいということは、この会議の中では理解はできますが、使う側として、このようなニーズがあることに対して、いかにそのあたりをどのように埋めることができるのかという議論がされたのかを教えてください。時間帯を伸ばしてほしいというのが、一番のニーズだと思います。前回の実証と比べて最終便の時間は、たった20分しか伸ばしていない。それが努力なのかどうか。交通事業者さんとどのような議論があったのかを教えてください。

【事務局】

健康管理センター線(を運行している車両)が他の路線の運行にも組み込まれていることもあり、今回の運行案の始発および最終便については、既存の健康管理センター線の運行時間となる。既存路線の運行を終えたあと、他の路線を運行するといったこともあり、案のような運行方法でしか対応が難しい(このダイヤをずらしたり、始発よりも前、最終便であればその後にダイヤを組むと他の便にも影響が出る)という話を交通事業者さんで行い、現在の健康管理センター線のダイヤの間を埋めるような形で案として設定しています。

【委員】

今回、2回目の実証実験ということで、前回の実証実験では、コスト面や、デマンド交通では自由度が増すと事業所さんに負担をかけてしまうというところがあったので、今回、それを克服してここまでやろうとはならなかったんでしょうけども、実際に市街地循環バスに関しましては、今までよりも期間も長く、便数も増してやるということですので、そのあたりも含めて、以前の時よりも(乗客は)増えていかないといけないと思います。それに関して、先ほど清水委員からもご発言がありましたが、やはり(前回)PR不足というものもあるのかなと思います。使われる方が少ないというよりは、知らないという方が多いと思いますので、そのあたり、先ほど「チャンネルO」や「広報おばま」(で周知を行う)といったこともおっしゃられていましたが、もう少し工夫のできるような取り組みをやっていただきたいと思います。

【事務局】

広報の点では、十分周知できるような取り組みを引き続きやらせていただきたいと思っております。また、我々としましては、計画に基づいてコミュニティバスの再編(見直し)というところを考えております。循環バスだけ単体、タクシー活用だけ単体というバラバラの取り組みはしていないというふうにご理解いただきたいと思います。いかに遠方から来た方を市街地に運んでいただけるのか。そして市街地をどうやって回っていただけるのか。そうしますとタクシーの利用によると、今の隔日運行

線というものを少し再編できるのではないか。その分を市街地循環バスの方に注力できるのではないか。そういったことも見据えております。冒頭にも申しましたが、今の（小浜市に）あるバス、鉄道、タクシーといった、小浜市内の公共交通の資源を複合的に組み合わせるといような全体的なイメージ（構想）をもって取り組ませていただいておりますので、今後とも貴重なご意見をいただきたいと思います。宜しくお願い致します。

【会長】

タクシーの実証事業についてですが、モニターを250名というふうになっていますが、ただモニターをありますよ（募集していますよ）というだけでは、なかなか反応もしてもらえないのかなというところがありますが、そのあたりはどんなことをされるか、（どのように）あたりをつけられるかなどあれば教えていただきたいと思います。

【事務局】

できればプッシュ型でやりたいというのが、我々の希望ですが、なかなかそういったことができませんので、各地区の区長さんをお願いをしてモニターを募集する、または、各コミュニセンターに協力いただきながらできるだけ集中してモニターを募集していただく、または、推薦していただくというようなことは考えております。

【会長】

市街地循環バスについては、モニター制ではないということで、P14にバス停から見えそうな、目的地になりそうな施設などがリストアップされていますので、将来像としては、こういうところにこの市街地循環バスを積極的に使ってもらって、楽しみながら街中を周遊してもらったり、時間を過ごしてもらおうということができるのと街中の賑わいに創出に繋がったり、あとは少し歩いたりすることも考えられるので健康増進など、そういうような街づくりというところにも繋がるという話をしていく中での循環という意味合いが強いと思います。

今回のあたりまで協力を求めるのかということがあるかと思いますが、ぜひ（資料に）あがってきているお店や施設については、そういう人（循環バスを利用された方）歓迎ですみたいなことをアピールしてほしいと思います。また、チラシに店舗名などを載せてもいいのではないかとか、普通ならお金（掲載料）を取るとありますが、今回は無料にして上手くいったら、あとからお金（掲載料）を取ればいいと思います。これだけお客さんが来るのならチラシに載せてという方向にもっていけばいいと思います。こんなところがあるんだということを知ってもらうチャンスというふうに捉えればやれることは何でも一緒にやって、とにかく（循環バスに）乗って（街中を）動いてもらうということを1回でも増やすようなことに協力してもらうことも必要かなと思います。ただ走りました（運行しました）だけでは、なかなか乗ってもらえるとは思えない。そこは協力いただきながら、連携しながらやっていただくというところが私が期待するところです。

モニターに関しても、自治会長さん（を通して）などあると思いますし、社協や地区の集まりやイベントなどを上手く活用していただくといいと思います。やはりこういったことは人からだと思います。口コミみたいなもので、自分だけだと嫌だけど、一緒にやろうという話になるとやってもらえたりというのがあると思いますので、そういったことを上手く使わないといけないかなと思います。

市街地循環バスの実証は期間はいつからいつまでに実施されますか。

【事務局】

市街地循環バスの実証につきましては、10月から2月までの約5カ月間ということで予定しております。

【委員】

市街地循環バスにつきまして、利用促進の観点でのご意見というか、ご質問というかそういったところなんですけれども、実証期間の10月～2月の間なんですけれども、毎年、小浜市さんは食文化館で土日のイベントをされていると思いますが、イベント日だけ土日運行（臨時運行）など検討していただけると、日常利用というか、より観光客の利用のニーズも把握できたりだとか、それが利用のきっかけになったりするかなと思います、そこも事業者との兼ね合いということでしょうか。

【事務局】

事業者さんとのお話の中で土日の運行は少し厳しいなという話を聞いております。やはり、今後実証実験を踏まえて、将来どういったところで本格運行ができるのかというところは検討すべきでないかとは思っております。

あくまでも今後のスケジュールと言いますか、近々のスケジュールでいきますと、本日の公共交通会議で実証事業の説明をさせていただきましたが、これが終わりましたら、行政側としては、9月議会に上程をさせていただいて、審議を受け、議決された時に実証事業がスタートするという事だけ申し添えたいと思います。

【委員】

土日のイベントでも（循環バスの運行が）あったら便利だとは思いつつ、かなり食の祭りの混雑具合を見ると、事業ごとに別のシャトルバスなど違う施策を考えた方が良くと思いますので、それは事情もあるだろうし、市民の足としてなのか、イベントの時に利便性を図るのか、また目的が変わると思いますので、そこは明確に分けて考えられた方がいいのかなと思います。

令和4年度にされた時に近所の方の間でかなり話題になっていたと思います。当時、かなりローラ一作戦のような形で周知を図っておられたように記憶していますので、大変かとは思いますが、ぜひ今回も同じようにやっていただけるとありがたいなと思います。宜しくお願いします。

【事務局】

前回は広報などで周知させていただいたが、一番（影響が）大きかったのが、ふれあいサロンです。そこで周知をさせていただいたのが、非常に大きかったと思っておりますので、今回もそういったことを活用しながら周知に努めたいと思っております。

【会長】

先ほどおっしゃっていただいたとおり、これは9月の議会で話をして、議決を経て、10月からスタートということで、会議自体はどのようなタイミングで行われますか。というのも実証実験ですので、検証を求められるとなった際に、そのあたりをどう検討するのかということについてどのタイミングでやるのかということもありますし、モニターに何を聞くかといったことなど今回の会議では出ていないですが、そのあたりの考え方、整理はどのようにすればよろしいでしょうか。

【事務局】

（実証事業について）これから審議を受ける中で、ご指摘もあるかと思いますが、本日の会議でのご意見、それから議会での審議でのご意見を踏まえて、また、会議で集まるということも皆様なかなかご都合もあると思いますので、こういった内容で実施させていただくということについては、書類等でお知らせをできればと思っております。結果については、集計というところもございますので、今年度中になるのか、来年度早々になるのか、このあたりのところは会長とご相談もさせていただきながら、決めていきたいと思っております。

【会長】

会議の中で決めるまではいかないにしても、皆さんにこういう方向でいきますよということで、ご報告なのか、書面協議なのか、そういった形をとらせていただいて確認というようなことだと思います。皆さん、そういったことでよろしいでしょうか。

今年度中にもう一度会議はあるでしょうから、その時にはその結果、2月末までだと集計が3月には間に合わないということになりそうな感じもするんですけども、いずれにせよ、途中経過やどういう状況かというのは必ずその中（次回会議の議事）に含まれるはずですから、それを見て議論させていただくという形になるかと思います。

【会長】

他の皆様からご意見、ご質問はございませんか。

【会長】

その他としまして、事務局、委員の皆様から何かございませんでしょうか。

※特になし

ありがとうございました。それでは、本日の議事についてはすべて終了とさせていただきます。皆様、ご協力いただきまして、ありがとうございました。

閉会

【事務局】

川本会長ありがとうございました。また、委員の皆様につきましては、貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。

皆様からいただきましたご意見を参考にさせていただき、今後の議会での審議、これらを踏まえまして実証実験を迎えたいと思っております。今後の小浜市の公共交通の在り方につきましては、引き続き、福井大学様、交通事業者様と検討を進めていきたいと思っております。

それではこれもちまして、令和7年度第1回小浜市地域公共交通会議を終了させていただきます。誠にありがとうございました。

以上